

ふれあい 支えあう すこやかなまち 住みよい高須 たかす社協だより

第23号（春・夏編）
令和7年 6月15日発行
高須地区社会福祉協議会
発行責任者 香月 英彦

令和7年度総会 5/13 開催、2026 高須社協 40 周年へのスタート

高須地区社会福祉協議会 会長 香月英彦

2025 年問題にむきあい、希望のもてる「高須のふる里」づくりへ



高須地区社会福祉協議会
「ひとにやさしいつながりのある高須」
(デザイン宮本富士雄氏)

2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上となり高齢世代人口がピークをむかえております。(高須の高齢化率 R7.3 月末 37.5%3066 人)。今、「人生 100 年時代しあわせな長寿社会を築いていく」ことが社協の活動の要のひとつになっているとおもいます。

一方「少子化」も課題になっておりますが、高齢者のこうした「安心して暮らせる生活の環境づくり」が、次世代にも「希望」がもてる基礎になるものと確信します。

2026 年には、高須地区社会福祉協議会が 40 周年をむかえます。総会は、令和 6 年度を振り返りながら令和 7 年度へ「希望をもてる新しい高須のふる里づくり」のスタートになりました。

地域諸団体、病院・施設・学校・行政のご支援をお願いします。

たかす元気プラン 11 期から 12 期へと推進：助けてと気軽にいえる高須地域へ

総会では、2024 年度(11 期)の報告と 2025 年度(12 期)の活動についての計画が了承され新年度をスタート。特に 2025 年問題(孤独、健康づくり、生活支援)への対応が課題です。

基本理念「ふれあい 支えあう すこやかなまち 住みよい高須」を指針として

1. 誰もが地域や家庭で孤立しないようにこころがけましょう。
高須東西南北の 5 つのサロンや 3 つのカフェを持続しています。気楽に集まりましょう。
2. 地域の団体施設・行政とつながり「たかす SOS ネットワーク」で人災、自然災害を防止。
認知症にやさしいまち高須、気候変動にマッチした防災対策をすすめましょう。



(高須中学校 2 年生と地域住民と一緒に認知症について学ぶ様子)



(朝のラジオ体操)

3. 人生 100 年時代しあわせな長寿社会には、健康第一。
日常のラジオ体操会や健康体操で健康習慣づくりでフレイル対策。
4. 困ったときは、「高須生活支援相談員室(高須市民センター)」へお越しください。行政、福祉協力員、民生委員と連携して「地域の生活支援活動・たかすちょこっと応援タイ活動」を行います。また介護者同士のカフェ開催。



※各地区の社協福祉協力員 50 名、ちょこっと応援タイ 30 名が地域の見守り、生活支援活動実施。また、民生委員(東：今田丈夫、河本弘子 西：安部和夫

南：坂田信子、谷川澄子、池田貞春 北：宗岡峰子、藤木憲次、民生委員児童主任委員：草野美香、棚田直美の皆さん：敬称略)と連携して相談活動を常時おこなっています。
お気軽にお声がけください。



人生100年時代、高須のしあわせな長寿社会へ



科学技術と福祉をつなぐ架け橋

九州工業大学 教授 柴田 智広

昨年 6 月に高須地区社会福祉協議会の皆さまが、私が代表で運営する九州工業大学のスマートライフケア共創工房をご見学くださいました。



当日は、厚労省の介護ロボットプラットフォーム事業の紹介や、共創工房でのプロトタイプ開発の現場をご案内し、地域と大学との連携による介護イノベーションの取り組みを紹介しました。

ご来訪いただいた皆さまの中には、先日私たちの研究室が QoL(生活の質)を予測する技術に関する国際会議論文を投稿した際、被験者としてご協力いただいた方々もおられます。このような地域住民との協働は、私たちにとって非常に貴重であり、科学技術と福祉をつなぐ架け橋でもあります。今後も開かれた研究・教育・共創の場として、地域の皆さまとともに、安心して暮らし続けられるまちづくりに貢献してまいります。

地域生活課題の解決に向けて

北九州市立大学 教授 坂本 毅啓

坂本ゼミでは、高須地区をはじめとする地域の皆さまと連携し、様々な活動に取り組んでいます。

例えば、行方不明者搜索模擬訓練は高須地区から始まり、現在では他地域にも広がっています。また、市内他地区での小学校での子どもの居場所支援や、門司区や高須地区でのフィールドワークを通じて、学生たちは地域課題に向き合い、実践的に学んでいます。

こうした活動の場を日頃から提供して下さっている地域の皆さまに、心より感謝申し上げます。2025 年度も高須地区での活動を予定しており、地域生活課題の解決に向けて、少しでも貢献できれば幸いです。引き続きよろしくお願いいたします。



(第9回 認知症を考える集いのご指導)

社会福祉協議会 令和7年度視察研修



「北九州地域再発見！」をテーマに視察

令和 7 年 6 月 6 日(金)、福祉協力員、ボランティアの皆さん 27 名で研修に行きました。

○若戸渡船：若松と戸畑をむすぶ若戸大橋は洞海湾の架け橋。その下を「若戸渡船」が明治時代から生活支援渡船今でも運行。

○若戸大橋の若松展示室：戸畑に移転した安川邸跡も紹介されています。

○若松から移転した戸畑の北九州市の有形文化財旧安川邸は、戸畑大正末期から昭和初期の和洋折衷の近代化様式を語る貴重な文化財です。安川財閥は「安川電機」などの起業、「明治専門学校」(現九州工大)設立など北九州市の基礎のひとつとなっています。

○「戸畑菖蒲まつり」

毎年 6 月初旬に開催。
初夏の風物詩になっています



○「芦屋中央病院」

患者に寄り添う地域医療センターへ

日常の気軽な総合相談から外来診療、入院診療介護相談、リハビリから訪問診療までを含む病院の方針を伺い施設を見学。「地域に対応する医療活動の心強さ」を感じました。

特色：地域密着型多機能病院



高須地区社会福祉協議会が目指す「地域包括ケアシステム」で「地域共生社会づくり」の参考になった研修でした。
(報告：香月)



学校と地域のつながり



「高須中学校に赴任して」

高須中学校 校長 中村 弘幸

今年度、曾根東小学校より高須中学校に赴任してまいりました校長の中村です。2年ぶりの中学校勤務ということで、改めて中学校教育の責任の重さを実感し、気を引き締めているところです。



四月からの二か月、高須中学校の子どもたちは様々な場面で素晴らしい姿を見せてくれています。礼儀正しく、授業に真剣に臨み、一生懸命に掃除をして、目を輝かせて行事や部活動に取り組む姿です。本当に「真面目にがんばることの尊さ・大切さ」を知っている子どもたちだと感じます。

今の高須中学校があるのは、教師の子どもたちへの関わりに加え、多大な保護者・地域の皆様の温かいご支援とご協力のおかげです。今年度も皆様の力をお借りしながら、全職員が一丸となり、子ども達が安心して学び、成長できる環境づくりに努めてまいります。引き続き、本校の取組にご理解とご協力をお願いいたします。

「安全・安心な学校づくりを目指して」

高須小学校 校長 南里幸一

今年度、高須小学校に赴任してまいりました校長の南里幸一と申します。本校では、安全・安心な学校づくりを目指して、教職員全員で努力しております。



環境的な安全面においては、朝の登校時に、地域の方々がボランティアで交差点に立って子どもたちを見守っていただいております。それにより、不審者対応や交通事故の防止等につながっており、子どもたちも安心して登校することができ、ご協力いただいていることに大変感謝しております。そのため、子どもたちには、自分から進んであいさつするとともに日ごろから地域の方々に感謝の気持ちを忘れないように指導しております。今後も、環境面だけでなく、心理面においても子どもたちが安心して通える学校になるように努めてまいりますので、地域の方々のご協力をよろしくをお願いいたします。

地域の見守りでのつながり



東班 福祉協力員 渡辺紀早子

私は、「シン・子育てファミリーサポート事業」に会員登録をして、3月から時々活動しています。地域で子どもの「送迎」と「預かり」をお手伝いする仕事で、気軽にお願いが難しい中、会員同士で連絡を取り合い「ちょっと困った」に対応しています。

高須に生活支援相談員が配置され、「ちょこっと応援タイ」がお困りごとの手伝いを始めて早10年余、つながりづくり、見守りを継続していく大切さを実感します。助け合いのシステムを確立するのも必要です。高齢者が増える高須地域では、小中学校とも連携して認知症レスキュー隊の学習もしています。子どもも大人も、お互い見守りながら見守られている。人にましますやさしい

まちになればいいなと思い、日々ボランティアに励みます。



北班 福祉協力員 松崎 朱美

ほのぼのサロンは毎月第1月曜日午前10時から高須市民センターの講堂で開いています。軽く体操をして体を動かした後、トランプなど簡単なゲームをしたり、参加された方たちに楽しい時間を過ごしていただいています。

高須北にお住まいの方を対象にしていますが、4月は東のサロンの方たちと一緒に、ニュースポーツ（五目お手玉）をしました。ゲームの合間にはお茶を飲みながらお話をしたりして交流をしました。そして最後に飴のつかみ取りで沸き上がり、講堂に笑い声が響き渡りました。いつもと少し違うサロンに

皆さんが笑顔で帰られたのが印象的でした。



地域みんなで支えあい！ いろんなこと一人では背負っていませんか？

★どんな相談でもいいの？ はい、お気軽に！

高須地域生活支援相談員 山本直子

日常のちょっとしたお悩み大歓迎です。

「地域生活支援相談員は」生活支援を必要とする方のお困りごとを把握して、ボランティア組織や専門の機関につなぎコーディネート致します。



行政
地域包括支援センター
地域の組織
ちょこっと応援タイ
介護施設
医療機関

「第15回 ふれあいカフェ」 5月27日 実施

日々の介護の中でほっと一息つける時間を過ごしていただきたいと開催しています。一人で悩まず、周りの援助や福祉サービスを利用したりして、休養できる時間を作る事の大切さを感じます。



回を重ねるごと、お互い顔見知りになり、「ふれあいカフェ」が「憩いの場」となるように続けて行きたいと思います。次回は8月26日（火）の予定です。

生活支援相談員がかわりました

高須地域生活支援相談員 佐藤郁子

お困りごとや不安な気持ちを一人で悩んでいませんか。お話を聴き解決に向けて良い方法がないか一緒に考えます。

ご近所の〇〇さんの様子が心配、空き家の庭木が生い茂っているとか周囲の状況でお気づきのこともご相談ください。心細い思いを我慢せず、ご連絡下さい。私も微力ながら高須がより住みやすい地域になるよう頑張ります。

【地域生活支援相談室】

地域の相談窓口として皆様をお待ちしております。

【相談員】山本直子・佐藤郁子

【電話】080-8353-1673

【相談日時】月・水・木・金 12:30～16:30

上記以外の日時では、

高須社会福祉協議会 会長

香月英彦にお電話下さい。

☎090-8838-9314

「たかすちょこっと応援タイ」が

お困りごとのお手伝いをします

～人生100年時代を生きる～ 生涯現役80代グループ活躍！

100歳まで生き抜いた今田八郎さん



西班 福祉協力員 田代 香

昭和62年、高須西地区に初めての老人会を立ち上げ、初代会長となり、その後、木彫り教室を開き、約50年間、教えた生徒さんは150人にも及ぶそうです。

80歳頃からは奥様の介護が始まり、約10年間教室をしながら、奥様のお世話をされていました。

90歳の頃は身体も衰え、愛犬と息子さん夫婦と穏やかに過ごしながら、自立した毎日を過ごされていました。毎朝4時に起床し、自分のためのご飯とお味噌汁を作り、息子さん夫婦には人参ジュースを作り、自分で出来ることをし、夕方5時には就寝という毎日だったとか。その八郎さんは昨年12月、息子さん御夫婦の腕の中で眠るように亡くなりました。

前日までお元気に話しもされていたそうです。病院には行かなかったことがなく、飲んでいたのは、「ピオフェルミンとわかもと」。大好物は、上質の牛肉だったとか。家族には、いつも「ありがとう、世話をかけるね」と感謝されていたそうです。素晴らしい人生を全うされた方でした。

南班 福祉協力員 香月利都子

高須南の「いきいき夢サロン」のメンバーを中心に結成して15年目で、今や平均年齢82歳のよさこい踊りグループ「BBC」。皆がワイワイ楽しく活動しています。南公民館で練習を重ね、市内の施設や祭りイベントにも定例で出演、先日はRKB「まじもん」に出演したり。まだまだ元気いっぱい、人生100年時代を謳歌されています。

RKB 出演



黒崎よさこい祭り出演



木彫りの
作品